学校教育実践コース（社会科教育），外国史Ⅰ

現代社会に生きる私たちと西欧の歴史

—European history for today: What can we learn from the past?—

社会科教育・森　貴子

1. 講義の概要

金曜日５限の外国史Ⅰは，二回生以上を対象に，上記タイトルにて開講された。

(1)講義の目的

本講義では，現代における様々な問題を，資本主義の生まれた西欧を場として歴史的・長期的観点から捉え直させ，今という時代がどんな時代であるのかという「歴史感覚」を身につけさせることを目的とした。また，中学校社会科や高校地歴の教員を目指す学生が多く受講するため，本講義を通じて，古代から近現代についての最低限必要とされる西洋史の知識を獲得させることも含意している。

具体的な目標としては，古代から近代の歴史を，人類の生活形態，社会経済様式などに注目しつつ概観させることで，現代社会を当然視せず，資本主義成立以前と以後で，生活がいかに変化し，そこにどのような問題が存在するか理解させることを目指した。

(2)講義の詳細

授業は，基本的に，講義形式で行われた。『あなたが歴史と出会うとき』(堺　憲一著，名古屋大学出版会，1989 年）を主なテキストとしつつも，そこに独自な内容を織り込みながら古代から近代までを概観し，現代社会との関連で問題を整理した。学生に対しては，テキストについて，各回の授業で扱う範囲を事前に読み込み，自分なりの理解をしておくことを要求した。また，各回の内容に沿った史資料を可能な限り準備して，学生による考察を手助けすると同時に，より広範な知識を獲得させるように心がけた。

２．授業評価の内容と結果

授業評価は，学生に無記名アンケートを実施し，その結果に自分なりのコメントを加えることで行うこととした。試験を受けた学生 23 人中,アンケートに回答してくれたのは 21 名（大学院生・社会科教育１名：社会科教育二回生９名：情報教育コース二回生５名／三回生１名：教育学二回生２名：国語教育二回生１名／三回生１名:教育心理学二回生１名）であった（回収率 91%）。

◎ 問 1ー９は，次の五段階で評価してもらい，下表のような結果を得た。

＜評価基準＞

５：強くそう思う（非常に良い）
４：ややそう思う（良い）
３：どちらとも言えない（普通）
２：あまりそう思わない（あまり良くない）
１：全くそう思わない（良くない）

＜問い＞

問１　この授業への出席状況は
問２　授業のテーマ・目的は，明確でしたか
問３　担当教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか
問４　担当教員は重要な点を適切に説明しましたか
問５　板書は見やすかったですか
問６　配付資料は有用でしたか
問７　授業に対する教員の熱意・工夫が感じられましたか
問８　授業の内容・レベルはあなたにとって適切でしたか
問９　授業によって考え方が培われたり，得るところがありましたか

評価	5	4	3	2	1
問１	15	4	2	0	0
問２	11	8	1	1	0
問３	14	5	2	0	0
問４	11	9	1	3	0
問５	15	6	0	0	0
問６	9	8	4	0	0
問７	13	7	1	0	0
問８	6	8	5	2	0
問９	8	9	4	0	0

＊問１ー９に対するコメント

問２：分かりやすかった／何をテーマにして

いるかは把握できた
問３：要点をまとめていて振り返りやすい
問４：明確だった／たまにどこが重要なのか分からなかったときがある
問５：字が大きくて良かった／よくまとめられていた／見やすかったが，番号がめちゃくちゃ／いつもペースが少し速い
問６：補助になった／有用だった／難しい
問７：要約して板書されていたので，本の内容と照らし合わせると分かり易かった
問８：適切なレベルだった／世界史を履修していなくても理解できたので良かった／少し難しかった／難しかった
問９：多方面に視野が広がった／先人の知識や失敗を学んだりして考えが広まった／知識を深める上ではよかった／社会の変化について考えが培われた

◎ 問 10, 11 は記述式で解答を求めた。以下，紙幅の制約上, 内容を整理して取り上げる。

問 10　この授業で良かったと思う点, 印象に残った点を挙げてください。

高校の世界史で流しただけの部分が詳しく取り扱われていて，興味深かった／資本主義の原型が中世農村にあることは知らなかった／板書以外にわかりやすい説明をしてくれた／前回の復習をしてから進めてくれたので入りやすかった／経済の視点でヨーロッパ全体を見られた点がよかった／教科書・プリントを利用して効率よく進められていた／外国史における基礎知識だけでなく,「流れ」を意識して歴史をひもとくことができて良かった／カタカナを毛嫌いしていた部分もあったが，講義を通じて西洋史を好きになれた気がする

問 11　この授業で改善すべき点を自由に挙げてください。

板書が多く, しんどかった／ペースが速く，しかも時間内に終わらないことがあった／重要な部分をもっと強調してほしい／内容と関連したビデオを見せてほしい／もっと発言の機会を与えてほしい／予習のポイントを教えてほしい／知識量が少ないと，ついていくのが大変／途中で課題を出してくれてもいい

３．コメント–授業の達成度・今後の課題–

近代社会の形成プロセスを追跡するという本講義の手法は，テーマを絞って目的を明確に押し出すという点で，分かりやすく，概ね好評を得たようだ。前近代と近代の違いを意識しながら歴史の流れをつかみ，同時に西洋史に関する基礎的知識を身につけてほしいという，本講義の所期の目的は，基本的には達成できたと感じられる。

ただし，アンケートを通じて，いくつかの課題も浮かび上がってきた。まず，半期という限られた時間で古代から近代までを扱うことから，ペースが早い，ついていくのが大変などの，こちらが予想していた通りの感想も提出されていた。この点は，テキストを用いた学習のポイントを指示することで，予習・復習を実質化させる努力が必要だったと反省している。また, 発言の機会を設けてほしい，課題を出してほしいなどの要請からは，学生達が積極的に講義に参加し，考察し，勉強に取り組みたいという意欲を持っていることが判明した。その熱意に応え，視野を広めると同時に関心を深化させていけるような取り組みを，工夫していかなくてはならない。

以上の技術的課題のほかに，本講義の最大の問題が残されている。それは，学生に歴史解釈の多様性を認識させられなかったことである。前述したように，本講義では明確なテーマのもとで，歴史プロセスを描き出すことに重点が置かれていた。この点は歴史の流れを分かりやすく理解させる上で，プラスに働いたと自負している。また，大塚史学やマルクス, ウェーバーの概念などを用いることで，歴史解釈の面白さを伝えることもできた。ただし，その「分かりやすさ」の背景には，捨象された多くの歴史的事実や解釈があること，本講義での説明は特定の観点からみた一つの歴史イメージでしかなく，自らの問いかけ次第ではさらに新しい歴史像を構築できる可能性があること，これらの点については，講義の中で強調したつもりであったが，感想を見る限りでは，学生達にしっかりと自覚させることができなかったようだ（例えば，感想の中に「資本主義の原型が農村にあることは知らなかった」とあるが，これも一つの解釈でしかないにもかかわらず，学生は事実と認識してしまっているようである)。担当者の説明を絶対視しないような姿勢を，学生に身につけさせるにはどうしたらよいのか，この点は今後の重要な検討課題である。